

中国東北地方に伝存する日本関係書籍の現状

著者	戦 暁梅
雑誌名	中国に伝存の日本関係典籍と文化財
巻	17
ページ	127-131
発行年	2002-03-29
その他のタイトル	Chugoku tohoku chiho ni denzon suru nihon kankei shoseki no genjo
URL	http://doi.org/10.15055/00002990

中国東北地方に伝存する日本関係書籍の現状

戦 暁 梅

国際日本文化研究センター

1906年日露戦争が終わり、日本が中国東北地方と内蒙古東部の最大の経済独占組織——南満州鉄道株式会社を設立した。1931年の「満州事変」を契機に日本は中国東北地方を占領、1932年に日本は清の皇帝、愛新覚羅・溥儀を扶助し、傀儡政権「満州国」を設立し、1945年敗戦まで中国の東北部を植民地として統治した。こうした特殊な歴史背景を持つ東北の各都市には、それぞれ膨大な量の日本関係の書籍、資料が残されている。この報告では、中国東北地方の主要都市、ハルビン、長春、沈陽、大連にある公共図書館を中心に、その日本関係蔵書の由来、内容、現状等を通じて東北地方に伝存する日本関係書籍、資料の概観を見てみようと思う。

大連図書館

1907年に成立した南満州鉄道株式会社の資料室は、1919年には新しい館舎を建て正式に満鉄大連図書館と命名された。1945年戦争が終わり、満鉄大連図書館はソ連軍に接収され、1949年中華人民共和国が成立してから、地方政府に戻った。1951年に旅大市図書館として正式に開館したが、その後1981年に正式に大連図書館と名付けられた。大連図書館の225萬冊に及ぶ蔵書の中に、満鉄旧蔵書は約46萬冊、うち日本語の資料は約17萬冊ある。その中の多くの文献は既に孤本になり、文献、史料として極めて高い価値をもっている。特に館蔵の満鉄資料は国内外で最も豊富であると言われている。

旧満鉄大連図書館所蔵の日文図書資料は総じて94,115種、179,416冊あり、中には雑誌類1,906種、22,017冊、新聞104種がある。これらの資料には日本本土及びその植民地台湾及び朝鮮からの出版物、また日本の中国駐在各機構の出版物も含まれている。中には明治期も含めた明治以前の出版物は3,000余種ある。王宝平先生の統計によると、中には和刻本の漢籍が791種、日本語の書籍が3,188種ある。これらの図書は旧満鉄大連図書館の所蔵の他、文革の時期に個人の収蔵を集めたものと、元小村候記念図書館（現児童図書館）の蔵書からなっている。

大連図書館の統計によると、館蔵の日本問題研究に関する文献資料は28,000余種もある。中には政治類3,000余種、社会類1,500余種、文化類13,000余種、藝術類1,200余種、文学類8,800余種、歴史類1,000余種、教育類1,600余種、その他に政治、軍事、叢書類がある。『古事

記』は数十種類の版本があり、『日本書紀』も十数種類ある。『万葉集』の場合は各種の注釈、講義、研究論述が百余種ある。また政治類の中には日本政治史研究の一次資料として『大日本帝国議会誌』が挙げられ、歴史類では200余巻の数を誇る『大日本史料』が挙げられる。正式な出版物以外に、一部の書類と手稿もあり、中には移民類の手稿と他の形の原資料も200余種ある。その他、関東州、満州国に関する資料もまた数えられないほど豊富である。一部の資料は日本でも見られない貴重なもので、これらの資料は日本文明発展の歴史、征韓之役から第二次世界大戦まで日本の対外拡張の歴史を再現している⁽¹⁾。

遼寧省図書館

遼寧省図書館の前身は1947年に創立した東北図書館である。1948年8月にハルビンで開館したが、やがて1949年2月には沈陽に移転した。その後1955年に正式に遼寧省図書館と名を改めた。遼寧省図書館の320万種の蔵書のうち、古籍の所蔵は56万冊ある。中には善本の所蔵が約12万冊ある。そのうち宋、元版のものは百部近く所蔵している他に、東北地方の地方文献と満族に関する文献や、清朝の文献、満鉄関係の文献資料も豊富に所蔵している。日本関係の図書の殆どはこの満鉄関係の文献である。調査当時は図書はまだ整理中なので、カード式の目録だけを見せてもらった。目録と図書が一致するかどうかは確認出来なかったが、目録で見た限りでは明治期以前の和刻本古籍に関しては、日本で印刷した漢籍が多く、全部で1,000冊余りある。そのうち日本人著の古籍は40冊から50冊ある。これらの図書は、旧奉天図書館の蔵書と旧東北図書館の蔵書の一部からなっているという。下に、目録から見る一部の書名を挙げておく。

- ・倭名類聚抄二十卷 源順輯（破損あり）寛永七年（1667） 大坂書林洪川清右衛門刻本五冊
- ・箋注倭名類聚抄十卷 狩谷望之撰 森立之校 明治十六年（1883）印刷局 活字本十冊
- ・隔（革華）論一卷 塩谷世弘撰 安政六年（1859） 快風堂刻本
- ・燕澤古文碑考一卷 藤塚知明撰 天明三年（1783） 本屋治右衛門流輝軒刻本
- ・隠峰野史別録一卷 朝安邦俊撰 嘉永二年（1849） 渡邊（峯見）有乎爾斎刻本
- ・大明令 不分卷 延享三年（1746） 文刻堂 青竹樓刻本
- ・一切経音義一百卷 唐釈慧琳、續一切経音義十卷 遼釈希麟 延享二年（1745） 高野山北室院刻本55冊
- ・徂徠先生学則一卷 付録 先生書五道一卷 荻生雙松撰 享保十二年（1727） 江都書肆嵩山房刻本一冊（漢文、訓読）
- ・言志録一卷 佐藤坦撰 文政六年（1823） 刻本
- ・事物異名類編七卷 荒井公履輯 文久元年（1861） 江都書林青雲堂刻本二冊
- ・禹城出土墨宝書法源流考三卷 中村不折 昭和二年（1927） 西東書房、活字本三冊

沈陽市図書館

沈陽市図書館の前身は1907年に設立準備をし、1908年に成立した奉天図書館である。清末から民国期にわたって幾たびか名を改めたが、1924年に奉天市立図書館と改名し、1929年にまた遼寧省立図書館と改名した。1932年には、また奉天市立図書館となり、しばらくして奉天省立図書館となった。その後1938年に市立沈陽図書館と改名し、日本人片岡憲三が館長を務めた。1945年戦争が終った後は国民党政府が図書館を受け取り、沈陽市立図書館と名付けた。この時期に中国では国民党と共産党の内戦が始まり、沈陽市立図書館はこの間に遷移、再建を経て、1948年共産党の人民政府に引き渡された。1949年には中華人民共和国が成立し、1950年に沈陽市人民政府の文教局が成立した後、図書館は文教局の直属部門になり沈陽市人民図書館と改名された。また1953年には沈陽市文化局が成立し、沈陽市人民図書館は沈陽市図書館に再度改名して、文化局の直属部門になった。沈陽市図書館は150余万冊の蔵書を所有しており、その中の日本関係蔵書は9,641冊ある。これらの蔵書の大半は旧沈陽八幡庁図書館の蔵書であるが、中の大半は満鉄関係の蔵書で、日本で出版した物の中でも、古いものは1920～30年代の出版物が少量見られるが、線装古籍のなかに、和刻本はごく少数混在しているという状態である。調査時（1998.8）に、沈陽市図書館は古籍の整理作業を行っている最中で、具体的にどんな和刻本が混在しているかについては把握出来なかった。

吉林省図書館

吉林省図書館の前身は清、宣統元年（1909）に、当時の省の中心である吉林市で設立した。民国時期と偽滿州国時代を経て、中華人民共和国が成立した後の1945年には、吉林省の政府所在地は長春に遷移し、これに従って1957年長春で新館を建設し始め、1958年に竣工し、1960年正式に開館した。

吉林省図書館の館蔵図書は270万冊あり、そのうち日本関係の図書は謄写印刷の雑誌も含めて20万冊以上あるという。これらの図書は旧東北図書館の蔵書から由来したものと言われ、雑誌類なども相当豊富であり、その殆どは満鉄関係の資料である。明治期以前の書誌もこのなかに混在していると思われるが、その詳しい数量はまだ分からない状態である。

長春市図書館

長春市図書館の日本関係図書はカード式目録で、「満州国時代」と「旧日文」の欄目に分かれている。「満州国時代」の類はおよそ3千冊前後収められていて、中には大連図書館と漢図書分類目録、満州国立奉天図書館図書分類目録も入っている。「旧日文」の欄目では日本出版の書籍が収められ、数量はおよそ2万4千冊前後という。その内容は図書館、百科全書類、論文集から、文学、哲学、歴史、理学、医薬、農業、交通など様々な分野にわたっている。出版年は明治末から大正期にわたっているが、特に昭和初年の物が多い。

黒竜江省図書館

黒竜江省図書館に所蔵する日本関係の図書は約1万7、8千種、2万冊余りある。これらの図書の殆どは元ハルビン鉄道局からの寄贈である。カード式目録を繰って見ると、満鉄関係の図書が主であるが、二〇世紀初頭日本で出版された図書も一部混在している。次に書目の一部を挙げておく：

- ・西洋偉人伝 石川寅吉編 興文社 1928年
- ・支那新人国記 園田一亀著 奉天新聞社 1927年
- ・武家名目抄 弘文館 1899年
- ・明治功臣録 明治功臣録刊行会 1916年
- ・吉田松陰 徳富猪一郎著 1909年 民友社
- ・亜東指要 山根倬三著 東洋協会 1925年

ハルビン市図書館

ハルビン市図書館の前身は1920年代の初め頃に個人で建てた図書館である。この図書館は1927年4月にハルビン市に譲り渡され、ハルビン特別市立図書館と名付けられた。1949年2月、東北図書館（現遼寧図書館の前身）がハルビンから沈陽に移転した際に、残された一部の中の日文図書が、市の教育局に渡された。これを元に建設したハルビン市図書館は1950年10月1日に正式に開館した。館蔵図書の大きな特色の一つとして豊富な日本語及びロシア語図書、資料の所蔵が挙げられる。ハルビン市図書館に所蔵する日本関係の図書は全部で5万冊位ある。これらの図書はもと東北図書館の残留書籍のほか、旧僑民会、鉄路局から寄付された図書、資料からなっている。満鉄関係の資料が大半を占め、年代から言えば1940年代の物が多いが、1910年代、20年代の物も混在している。例えば次のような書目が見られる：

- ・大日本倫理思想発達史（上下巻） 岩橋遵成著 目黒書店 1915.2
- ・人としての道 小原要逸著 大阪 岡本増近堂 1917.8
- ・支那国民性の解剖 長谷川良之助著 東京大阪屋号 1923.2
- ・日露戦史 参謀本部編1-5 東京皆行社 1913.7

その他に、日本関係図書の所蔵は、吉林大学図書館や、東北師範大学図書館など、各大学の図書館にも多数見られる。東北師範大学図書館の日本関係図書は満州国時代の出版物も含めて、1300冊前後所蔵しており、そのうち日本で出版されたものは100冊余りある。調査当時（1998.6）、古籍部の倉庫で、未整理状態の日本語線装書と浮世絵の冊子も見かけられた。

中国東北部各地は、その特殊な歴史背景もあり、日本関係図書の所蔵が極めて豊富である。蔵書の内容から言うと、満鉄関係の図書資料が殆どで、その中に日本の古籍が混在している

状態である。長春市図書館のように満鉄の出版物、満鉄関係の図書、資料を満鉄関係の資料とし、日本で出版された図書を旧日文の資料として区別して整理されたところもあるが、混在したまま未整理であったり、或いは整理作業が不完全であることが多い。1984年、大連市図書館を中心に編集した『東北地方文献連合目録・第二輯日文図書部分』は東北三省の17の図書館⁽²⁾が1949年9月末まで所蔵していた東北地方の文献資料、満鉄関係の図書を中心に編集したものである。更にこれらの貴重な図書の内容を明らかにし、十分に利用出来るように、カード式目録と図書の対照や、既刊目録に収めていない図書の整理など、大量な作業がこれから要求されると思われる。

注

- (1) 大連図書館館蔵日本関係文献に関する情報は、大連市図書館の韓俊英氏の1997年大連日中関係史学術シンポジウムでの研究発表をもとに、韓俊英氏から提供していただいたものである。以下各図書館での状況を提供していただいた方は次の通りである：遼寧省図書館：武亜民氏、沈陽市図書館：赫艷華氏、吉林省図書館：張鳳桐氏、長春市図書館：張英華氏、黒竜江省図書館：呉秀明氏、師範梅氏、ハルビン市図書館：才慧忱氏。
- (2) 17の図書館は、それぞれ遼寧省図書館、沈陽市図書館、大連市図書館、錦州市図書館、遼寧大学図書館、吉林省図書館、長春市図書館、吉林市図書館、吉林大学図書館、東北師範大学図書館、延辺大学図書館、吉林省社会科学院図書館、黒竜江省図書館、ハルビン市図書館、チチハル市図書館、黒竜江大学図書館、ハルビン師範大学図書館である。